

ビジネスクリエーター研究学会

亀川教授にビジネスクリエーター研究学会について聞いてみました。

学会設立のお知らせは、2008年7月3日、「学会設立準備（亀川）」というタイトルのメーリングリストから始まりました。

亀川先生は設立の目的をこう書かれています。「ビジネスデザイン研究科(以下BD研究科)へ入学された方々は、新たなネットワークを作ることで、これまで個人が蓄積してきた知的財産のシナジーを得てきたと思います。しかし、こうしたネットワークによる知識の相乗効果は、大学院から離れると急速に低下してしまいます。知識を共有し、相互に研鑽できる永続的な「場」を提供することが、学会設置の目的です」。

このビジネスクリエーター研究学会について、亀川先生にインタビューしました。

ビジネスクリエーター研究学会は、なぜ設立されたの？

Q1 独立研究科の3科のなかで、ビジネスクリエーター研究学会が最後の設立になりました。学会設立の経緯を教えてください。

A1 BD研究科では、毎年多くの研究会が開催されていますが、各期の有志が集い、興味のあるテーマで研究をしているため、大学院を修了すると研究活動の継続が困難になります。せっかく研究活動を始めたのですから、永続的に研究を行い、その成果を発表する場が必要です。そこで、BD研究科修了者の関心領域を吸い上げ、社会科学の本来的な目的である社会的な課題に真摯に取り組む学会を創設しようと企画しました。母体はビジネスクリエーター創出センターです。BD研究科内ではなく、ビジネスクリエーター創出センターに設置するのは、学内外の研究者や実務家を募り、オープンな研究環境を構築するためであり、同センターを創造的事業構想のための研究拠点とする試みのためでもあります。事業構想を中心テーマとした学会設立により、BD研究科とのシナジー効果が期待さ

ビジネスクリエーター研究学会には、どんな人がいるの？

Q2 学会はBD研究科の現役生と修了生が主な構成員になると予想されますが、どのような方が主体になると考えられますか。

A2 研究科が中心となりますが、学外者との交流機会となる仕組みづくりでもあります。永続的な学びの場と研究機会を提供することが目的ですから、特定の修了生を中心にしたものではありません。1期生では、立教の博士学位を取得した方もおられますし、現在も博士課程後期課程に進学して実務に携わりながら研究活動を継続している方がおられます。こうした方々には中心的な役割を演じてほしいと思います。しかし、主役となるのは、学会に参加し、研究活動を継続しようとする意欲ある方々すべてです。

ビジネスクリエーター研究学会は、どんな学会なの？

Q3 亀川先生よりメーリングリストによって本学会の研究テーマの案内をいただきましたが、もっと具体的にビジネスクリエーター研究学会の研究テーマをお教えてください。

A3 事業構想は新しい仕事の創造であり、社会の問題発見とその解決策を構築することです。その意義は社会を豊かにすることであり、社会のあり方を含めて様々なテーマが対象となります。たとえば、一見すると無関係と思われる自然環境の問題も、研究対象となります。自然は、事業創造の制約となる一方で、環境破壊を制御するためのさまざまな倫理的・法的枠組みを構築しています。こうした倫理や法的な社会環境の形成が、環境ビジネスという新たな仕事を生み出します。人口問題も自然と社会の問題です。少子高齢化が社会に与える影響を分析し、何が必要なのかを考察すれば重要な研究テーマに発展します。その他にも、学校教育の問題や社会資本を形成する諸種の問題が新たな仕事の創造に関与します。いずれも、既に各分野において独自の研究を進展させておられますが、これを事業構想の問題として捉えることになります。「仕事とは何か。どうあるべきか」という問いは、結構面白いテーマです。

他の経営学関連の研究学会と、どこが違うの？

Q4 経営学関連の諸学会に対して、ビジネスクリエーター研究学会の大きな違い（特色）は何でしょうか。

A4 事業構想を研究対象にするには、実務家と研究者が相互に意見交換し、求められる社会のテーマを探索し、その解決策を学際的に研究することになります。いわば複合領域にある学会です。私が所属し、役員などしている学会を紹介すると、日本経営学会は経営学の分野で最も大きく歴史も古い学会ですが、実践的・実務的な研究はあまり多くありません。また、経営行動研究学会では、現実の企業行動に着目し、行動規範に関する研究や実証研究が行われます。さらに、日本経営教育学会は、実務的な側面が強いのですが、大企業を中心とした経営者教育や大学の経営教育に関心領域があるようであり、経営財務研究学会や日本財務管理学会は企業の資本調達と運用、経営哲学学会は企業の倫理や哲学など、それぞれに固有の研究領域を持っています。ビジネスクリエーター研究学会は、こうした領域の垣根を設けず、事業や仕事に関して総合的に研究し、社会に貢献しようとする学会です。

ビジネスクリエーター研究学会は、どこへ向かうの？

Q5 本学会の将来像について伺います。5年後、10年後にはどのような学会のあり方を目指していますか。

A5 設立当初の会員数は、140名程度です。しかし、BD研究科の修了生や在籍者、それに関係する教員を含めると、700名程度になります。BD研究科とは直接関わらない研究者も参加されていますから、近いうちに500名規模の学会にし、研究の裾野を広げ、社会に大きな貢献をしたいものです。さらに、日本のみならず、諸外国、特にアジア諸国のビジネスクリエーターに関する研究の場を構築できれば、面白いと思います。

インタビューを終えて ▶ 亀川先生には、お忙しい中を質問にお答えいただきありがとうございました。6期生は修了に向けて集中の時ですが、修了後のネットワーク維持、拡大や、研究の継続など、また、7期生もネットワーク形成や、研究への幅広い視点の獲得など、ビジネスクリエーター研究学会は、院生それぞれにとって入会する価値のある学会ではないかと思えます。まだ入会していない私は、早速入会することにします。（取材：チェ&プロミッチ）

著書紹介

ビジネスデザイン研究科の先生方は、執筆活動においても精力的にご活躍されています。MBAとしての関心領域を広げるために、先生方の最新の研究成果にぜひ触れて見ましょう。

亀川 雅人 先生

担当科目：ファイナンス・マネジメント2（金曜5限）



『10代からはじめる株式会社計画』
（創成社／2008年7月出版）

先生からのコメント：大学生による文化祭の模擬店を題材にした経営学ストーリー

林 倬史 先生

担当科目：国際ビジネス・マネジメント2（火曜5限）



『移動するアジア』
（明石書店／2007年10月出版）



『コビキタス時代の産業と企業』
（税務経理協会／2007年3月出版）

池田 耕一 先生

担当科目：CSR1・2（土曜3・4限）



『CSR経営革新』
（中央経済社／2008年7月出版）

先生からのコメント：日本経営学会第3回公開シンポジウムの成果として、CSR経営の在り方に対して理論的・方法的・実践的視座の提示をめざしたものです。

高垣 行男 先生

担当科目：グローバル・マネジメント1・2（水曜5・6限）



『経営戦略の理論と実践』
（創成社／2008年9月出版）

先生からのコメント：本書は、経営戦略における「理論」と「実践」の双方を相互に関連付けることを意図している。読者の対象として、大学において経営学を専門的に学ぶ学生諸君はもちろんのこと、企業において経営戦略の実務に携わる人々を対象としている。

※担当科目は2008年度後期の開講科目です。